

2022年5月8日

2022年度年間テーマ：「イエス様の祈り『主の祈り』によって、祈ることを身につけよう」

テーマ曲： ワワワいっしょに (CS讃美歌92番)

暗唱聖句：「罪の支払う報酬は死です。しかし、神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスによる永遠の命なのです。」

ローマの信徒への手紙 6章23節

動画ファイルへのリンク：

<https://youtu.be/NcgbKzCwxsc>

賛美：「しゅイエスのみちを」(KFC 子供さんびか 25 番：下を参照)

おいのり (今日も生かされていることを感謝し、主の守りと導きを祈ろう。)

おはなし「HC#1~2：もっとも大事なことを再確認しよう」スパーリンク宣教師

中高生科によろこそおいでくださいました。私が担当してきた中高生科はずーとハイデルベルク信仰問答を学んできました。実は今日は最後です。問答書の最後ではなく、私の中高生科担当の最後です。ちょっと寂しい思いがありますが、最後なので、この学びで一番大事なところを再確認しようと思っています。それはやはり第1問と第2問です。これらをまずいつものように一緒に読みましょう。

ハイデルベルク信仰問答書ができたのは1563年でした。ですから、「生き

<p>問1 生きるにも死ぬにも、あなたのただ一つの慰めは何ですか。</p> <p>わたしがわたし自身のものではなく、 体も魂も、生きるにも死ぬにも、 わたしの真実な救い主 イエス・キリストのものであることです。</p> <p>この方は御自分の尊い血をもって わたしのすべての罪を完全に償い、 悪魔のあらゆる力からわたしを解放してくださいました。</p> <p>また、天にいますわたしの父の御旨でなければ 髪の毛一本も落ちることができないほどに、 わたしを守っていてくださいます。</p> <p>実に万事がわたしの救いのために働くのです。</p> <p>そうしてまた、御自身の聖霊によりわたしに永遠の命を保証し、 今から後この方のために生きることを心から喜び またそれにふさわしくなるように、 整えてもくださるのです。</p>	<p>問2 この慰めの中で喜びに満ちて生きまた死ぬために、 あなたはどれだけのことを知る必要がありますか。</p> <p>三つのことです。</p> <p>第一に、どれほどわたしの罪と悲惨が大きいか、 第二に、どうすればあらゆる罪と悲惨から救われるか、 第三に、どのようにこの救いに対して神に感謝すべきか、 ということですが。</p>
---	---

るにも死ぬにも」についての「唯一の慰め」、つまり、力となる拠り所について聞くとときに、この時代的背景を思い出す必要があります。ヨーロッパで宗教改革の運動のまだ早期です。聖書の教えの再発見や教会の再形成の嬉しいこともあったのですが、しかし同時に、個々人が日常的に出会う試練、迫害、疫病のパンデミック、想像しにくいほどの苦しみもありました。その時に、思い煩いから、死の恐怖からどうやって救われ、落ち着きと心の平安を取り戻すのか、このような大きな課題が必然的に湧き上がります。

今日の私たちはいかがでしょうか。今の世界を見回すと、研究や技術がはるかに進んできてはいますが、16世紀のヨーロッパに似せて、難病と戦争に加えて、核兵器による破壊力を極めているものもありますし、原発事故もあり、日常的な悲劇もいろいろありますから、もしかしたら私たちも昔と変わらない悩みと恐れが湧き上がるかもしれません。さらに、造り主に背を向けた結果も色々あり、罪の問題もあります。このような中において心細くなる私たちの拠り所、慰め、力づけがどこにあるでしょうか。

問答書の答えの要点は問1と問2に要約されています。「生きるにも死ぬにも、」すなわち、どの場合にも慰めとなるのはイエス様による罪の償いによって悪魔の力から解放されること、全能の主権者なる神様の驚くべき守り、そして本当に意義と目的のある人生、充実した日常生活が出来るために与えられる聖霊の力付けにあるよ、と答えてくれます。神の独り子主キリストの救いの技、天のお父様の愛と御守り、聖霊なる慰め主の力づけ、この三位一体の神様との健全な関係にあります。これらがあれば、すべての試練や思い煩いに対処できるぞと問1の答えが指摘してくれます。抽象的な中身ではありません。歴史に実際にあったイエス様の十字架の苦しみと復活がありました。日々味わい、指摘できる天のお父様の極めて細かな守りと配慮があります。そして不思議な聖霊の力づけと励ましが常にあります。これらの三つは一言で言えば、救いそのものですね。

問2は当然の続きとして、それでは、悪魔から解放され、神様の守りを体験し、力いっぱい生活するための励ましと力を知るには何が必要ですか、と聞きます。問2の答えにもう一度聞きましょう。「三つのことを知る必要があります。第一に、どれほどわたしの罪と悲惨が大きいのか、第二に、どうすればあらゆる罪と悲惨から救われるのか、そして第三に、どのようにこの救いに対して神に感謝すべきか、」この三つのことですよと語っています。これ以後の問答書はこれらの三つの知らなければならないことを順番に取り上げて丁寧に説明してくれます。罪、救い、感謝なのです。これらを知りまた理解すればするほど、しっかりした拠り所と絶えることのない慰め、心の平安とちゃんと生きる自信が徐々に与えられます。そして、これらの三つのことを分析する中で、私たちがいつも唱えている使徒信条と十戒と主のお祈りの解説もありますので、礼拝で唱えてもあまりその意味と奥義を意識しない中身を徐々に深く知るようになり、礼拝も豊かに捧げることもつながります。

第1の罪の問題ですが、私たち人間が皆、創造主に背いてしまっていることを説明します。問答書の一番短い部分ですが、とても大切です。「罪と悲惨」という、その悲惨は、創造主に背いた結果として現れるあらゆる苦しみとようやく世の終わりに起こる審判のことを意味します。これに対して、第2に、神様の罪に墮落した私たちを救う御心と方法です。これは、私たちの努力や功績に少しも依

らないことを問答書が繰り返して指摘してくれます。救いは神様の一方的恵みの賜物であり、イエス様がご自身を身代わりとして罪を贖うために己を捧げて下さった。この主イエス様に寄り頼むことによって与えられます。これこそが宗教改革者たちが聖書から再確認して強調してきたグッドニュースです。イエス様に何かプラスすることではありません。完全な救い主です。信じて寄り頼むことを今日も再確認しましょう。そして、第3に、救いの喜びを知った私たちの感謝に溢れる心の正しいあり方を学びます。自分勝手に生きるのではなく、主が教えてくださる掟、主に喜ばれる日々の心構えと歩みに励むことを学ぶわけです。

今日は私たちの信仰のこの基本的なところを再確認して私の中高生担当のこひつじ科の奉仕を終えます。けれども最後にもう一度ハイデルベルクの学びを思い起こして、その目的に心を開いて思いを寄せてもらいたいです。宗教改革期の時に聖書から再発見した救いの道はこれであるよ、ということです。知って信じることは救われる秘訣です。主の慰めと守りと力を経験する唯一の方法です。これを皆さんに伝えるために宣教師となって日本に派遣されて今日この奉仕に当たっています。ですからこの話を聞いている皆さんに言います。主イエスを信じなさい。そうすれば救われますよ。唯一の救い主です。他にありません。寄り頼むものに失望することがありませんから、信仰をしっかりと心の中で保ち、教会の前で言い表し、家族と仲間伝えるように心がけましょう。

今回のお話はここまでにします。では、お祈りしましょう。

父、子、聖霊なるお一人の生ける全能の神様、今日は、CSの中高生科で学んできたハイデルベルク信仰問答書の最も中心的なことを再確認しました。何よりも主イエス様はその犠牲によって獲得して下さった救いを知り、天のお父様にいつも守られていることを信じ、聖霊による力づけをいただけることを感謝いたします。これほどまでに私たちを愛して下さった主の大きな愛があることをいつも実感しながら、平安な心を持つように、しっかりした歩みができるように、お励ましく下さい。今日はここまでの学びを感謝します。そして今後もさらに信仰を深め、神様がどれだけ私たちのことを大事にしておられるかを知って喜び、終わりまで主の民らしく歩ませて下さい。すべてのことの主の愛の御手に委ねて、主イエス様のお名前によってお祈り致します。アーメン

(けんきん) 今日も神様に捧げる献金をとっておいて、教会で再びお会いするときにささげましょう。2階の机にこひつじ科の献金箱が設置されましたので、用いましょう。

賛美：「シャローム、また逢う日まで」 (KFC 子供さんびか 70 番：下を参照)

お祈り：黙祷 (今日のCSの学びを感謝して、これからイエス様の恵みによっていつまでも生かされることを感謝する。)

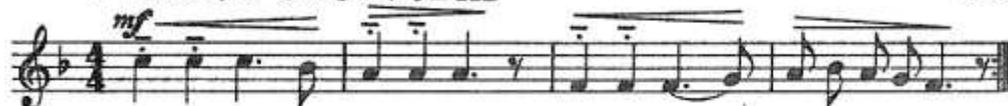
25 しゅイエスのみちを

本田 清一 作詞 1966

松田 孝一 作曲

マーチのように げんきよく ♩=112

1966



しゅイエスのみちを あるこう まっすぐに
しんりのみちを あるこう まよわずに



しゅイエスは みちです しんりです いのちです



いのちのみちを あるこう おわりまで

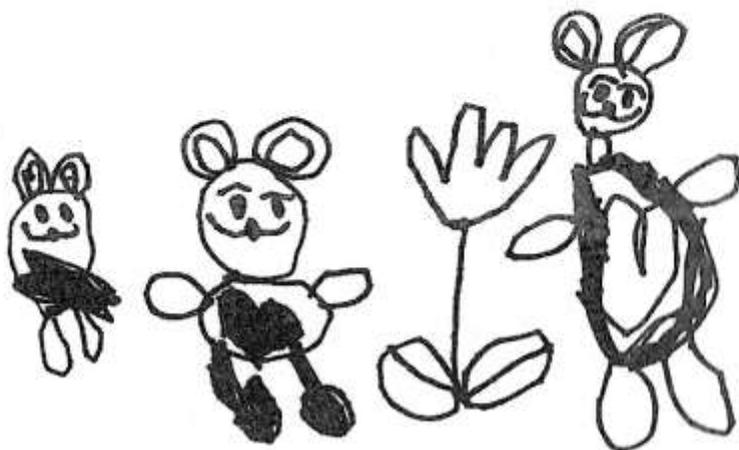
(イエスキリスト)

しゅイエスのみちを あるこう まっすぐに

しんりのみちを あるこう まよわずに

しゅイエスは みちです 真理です いのちです

いのちのみちを あるこう おわりまで



70 シャロ-ム

詩曲 山内修一
1971.2

C Em F C G7 Am

シャロ-ム シャロ-ム まに あう日ま で シャロ-ム シャロ-ム かみ

Detailed description: This system contains the first two staves of music. The top staff is in treble clef with a key signature of one flat (B-flat major/D minor) and a common time signature. The bottom staff is in bass clef. Chord symbols C, Em, F, C, G7, and Am are placed above the top staff. The lyrics are written between the two staves.

D7 G7 C Em F C

のみめぐみ シャロ-ム シャロ-ム まに あう日ま で シャ

Detailed description: This system contains the next two staves of music. Chord symbols D7, G7, C, Em, F, and C are placed above the top staff. The lyrics continue between the staves.

G C[♭] C G C[♭] F に

ロ-ム シャロ-ム ゆたかに ゆたかに ゆたかに -

Detailed description: This system contains the final two staves of music. Chord symbols G, C[♭], C, G, C[♭], and F に are placed above the top staff. The lyrics conclude between the staves.